

(様式第4号)

上田市 健康づくり推進協議会 会議概要

1 審議会名	健康づくり推進協議会
2 日時	平成29年11月20日(月) 午後1時30分から午後3時30分まで
3 会場	ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 第1会議室
4 出席者	宮下会長、本道副会長、下村委員、宮坂委員、大久保委員、 若林委員、水出委員、井上委員、小高委員、矢嶋委員
5 市側出席者	小林健康こども未来部長、石井健康推進課長、中山健幸政策担当係長、 川口健幸政策担当係長、緑川地域医療担当係長、橋詰保健予防担当係長、 望月保健予防担当係長、遠藤母子・精神担当係長、宮山丸子地域健康支援担当係長 高木武石地域健康支援担当係長、吉澤真田地域健康支援担当係長、片田主査
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	1人
8 会議概要作成年月日	平成29年11月27日

協議事項等

1 開 会 (石井課長)
2 あいさつ (小林部長)
3 協議事項
(1) 第三次上田市民健康づくり計画(案)について
ア 第1回協議会の質疑について
上田市の国民健康保険における一人当たりの年間医療費について説明。
(事務局) ・3次医療を行う医療機関がある松本市、佐久市と比較。3市とも年々増加している。
・佐久市は県平均より低く、松本市は上田市よりも高いところで推移。
・上田市は、国平均よりは低く、県平均より高い金額で推移している。19市で比較すると10位前後で推移。
・H26 国民健康保険 主要疾患別医療費割合では、 入院医療費：精神疾患(10.6%)が一番多く、 外来医療費：糖尿病(9.2%) 高血圧性疾患(9.1%) 慢性腎不全(6.6%) となっており、 生活習慣病、糖尿病患者の増加や重症化が一つの要因と考えられる。
イ 6分野の施策の現状と課題、施策の展開について
(ア) 健康管理分野(吉澤係長が説明)
(分野長) ○現状
・上田市国保の特定健康診査受診率は、県と比較して低い状況。
・特定保健指導の実施率は、県より高く、国が設定する目標値を上回っている。
・特定健康診査で有所見率の高い項目は、HbA1c、LDL コレステロール、血圧。
・65歳以上男性の約半数はメタボリックシンドロームの該当者及び予備群。
・糖尿病性腎症の人、糖尿病が原因で透析治療を開始した人は急増している。
・がん検診の精密検査受診率は、大腸がん検診を除いて国が設定する目標値を上回っている。
○推進施策
・特定健康診査の受診率向上を目指すとともに、健診結果を生活に活かせるような保健指導の実施に努める。
・糖尿病や循環器疾患の発症と重症化を予防するため、かかりつけ医と連携して取り組む。
・がん検診の受診率向上と、精密検査受診率の向上に努める。
審 議
(委 員) ・口腔の健康が生活習慣病に影響することがわかってきている。 松本市医師会・歯科医師会、信州大学井沢教授の共同調査では、口腔を健康な状態に保つこ

とは、生活習慣病のリスクを減らす可能性があるとの結果が出ている。

塩尻市では、試験的に、特定健康診査に歯科検診を組み込み、両者の関係性を調べている。

上田市でも、特定健康診査の結果と歯科検診の結果を突合することはできないか。

(分野長) ・現時点では、難しい。

(委員) ・東御市は果樹栽培が盛んで、血糖値の高い人が多い。しかし、取組により血糖値の高い人が減ってきていると聞いている。どのような取組をしたのか聞いてみてはどうか。

(分野長) ・上田市と比べて特別な取組をしているわけではないと聞いている。上田市でも、ターゲットを絞った取組をしている。今後、良い結果が出ることを望んでいる。

(会長) ・上田市のメタボ及び予備軍の女性が少ない理由はなぜか。

(分野長) ・女性はやせが多いという現状。20歳代30歳代のやせがそのまま続いているのではないか。

(イ) 身体活動分野 (川口係長が説明)

(分野長) ○現状

・1日の平均歩数は国の平均より少なく、実際には身体活動量が少ない状況。

・運動習慣者は男女とも低く、国の半分以下。

・運動をしていない理由は「時間に余裕がない」が最多。

・子どもの体力が低下している。児童の体力は、国や県に比べ低い状況。

○推進施策

・子どもの体づくりを支援

・日頃の身体活動量を高めるための支援

・ウォーキングによる交流や健康づくりの推進、運動の動機付け支援と運動習慣化の推進

審議

(委員) ・歩いて行かれるところで、手軽に楽しみながら運動ができることが重要。

・東京都では、徳島大学 荒木教授が考案した「くねくね体操」を幼稚園から高校まで導入したことで、運動能力が向上したと聞いたが、上田市では一貫した取組はあるか。

(分野長) ・ありません。

(委員) ・主催がどこかわからないが、高齢者が集まって体操をしている自治会もある。

(委員) ・体操などに参加する人はどこへでも行くが、行かない人は全く行かない。

(分野長) ・様々な運動に関する事業はあるが、それぞれの部局で情報発信している。今後の計画では健康に関する情報の一元化を図り、市民の皆様には情報が行き渡る様にしたいと考えている。

(委員) ・都会に比べて上田市民は、健康に対する意識の問題なのか、歩かない。サイクリングをしたくても道路は危険。身近な所で、気軽に運動できる環境整備・まちづくりを目指すという事も重要。

(委員) ・歩くことはとても重要だが、歩くための動機が必要。目的がないと続かない。やろうと思えばどこでもできるという事など、もっとPRすれば、広がっていくのではないか。

(ウ) こころ分野 (宮山係長が説明)

(分野長) ○現状

・日常的に疲労を感じている人が増加している。

・男性は女性に比べ、相談できる相手がいない人が多い。

・自殺死亡率は国や県に比べ低くなっている。

○推進施策

・こころの健康の保持・増進に関する知識の普及・啓発や相談体制の充実

・自殺対策に関わる人材の育成と、関係機関と連携した総合的な自殺対策の取組を推進

・1人で悩みを抱えず互いに見守り支え合う体制の充実

審議

(委員) ・日本財団の「いのち支える自殺対策プロジェクト」の調査では、4人に1人が死にたいと回答している。兵庫県では、医師会とも連携し、小学校から高校まで具体的な自殺予防教育を

している。上田市でも何等かの取組が必要ではないか。

- (会 長) ・市の取組の自殺予防の推進の中に、自殺予防教育を取り入れていかれると良い。
- (分野長) ・先日、国から具体的な自殺対策計画に関する方向性が示され、その中で学校教育についても示されていた。
- (事務局) ・昨年自殺対策基本法の改正があり、都道府県と市町村に自殺対策計画策定が義務付けられた。今年度は県が策定しており、来年度は上田市の自殺対策推進計画を策定する。策定にあたっては、庁内関係者以外に、外部の関係者の皆様にも参画いただき、その中で具体的な内容を検討していきたいと考えている。
- (会 長) ・教育の部分についての詳細は、行動計画の中で触れていくという事か。
- (委 員) ・小中学校では、道徳や総合的な学習の時間で命の大切さについて毎年計画を立てて学習をしているが、直接“自殺”について扱うことはない。

(エ) 親と子分野 (遠藤係長が説明)

(分野長) ○現状

- ・妊娠・出産をめぐる現状については、全妊娠届者数は減少しているが、高齢妊婦は増加している。
- ・支援や見守りが必要な妊婦が増加している。
- ・乳幼児健診では発育や発達に経過観察が必要な児の割合が過去5年間で増加傾向である。
- ・多くの母親がインターネットから子育ての情報を得ており、子どもへ電子メディア機器を見せたり触らせている。

○推進施策

- ・子どもの健やかな成長と望ましい生活習慣形成に向けての支援
- ・妊娠・出産・産褥期の健康づくりの推進
- ・切れ目のない支援による孤立化の防止
- ・思春期の健康づくりに関する正しい知識の普及啓発と自尊感情の育成支援。

審 議

- (委 員) ・電子メディアが子どもに与える影響については、具体的なデータはあるのか。
- (分野長) ・具体的なデータはないが、一般的な電子メディアの悪い影響と捉えている。
- (委 員) ・このアンケート調査での子どもとは、どの年代の子どもを指すのか。
- (分野長) ・乳幼児健診対象児(3歳以下)の親を対象にアンケートを実施した。
- (会 長) ・支援や見守りが必要な妊婦が、平成28年度は、平成23年度と比較して2倍に増加しているが、それはなぜか。その内訳についてお聞きしたい。
- (分野長) ・妊婦の体格(やせや肥満)で保健指導が必要な妊婦も含めたため、増加したと考えている。
- (委 員) ・アンケート調査は平成23年にも実施しているが、対象やどのような質問をしたのか、概要を載せてほしい。
- (事務局) ・対象者や内容については何等かの形で載せていきたい。
- (委 員) ・親子関係が大事だと常々思う。協力して取り組んでいければ良いと思う。
- (会 長) ・どこ(どの部署)がどこまで携わるのか。計画には学校教育の部分が抜けている。

(事務局) 様々な御意見をいただきました。施策に関わる部分に関しては、反映させていただき、次回以降に示したい。

4 その他

- (事務局) 第3回 会議日程 12月25日(月)午後1時30分
第4回 会議日程 平成30年1月22日(月)午後1時30分 としたい。

5 閉 会